

[名古屋観光ホテル]

システム導入で宴会部門の効率化実現。 営業サポートへの本格活用めざす。

名古屋を代表する老舗ホテル「名古屋観光ホテル」は2004年12月、収益性向上をめざしてホテル内の全システムを更新した。宴会部門に導入されたのが婚礼・宴会会総合支援システム「BVManager」だが、早くも大幅な効率化を実現している。

同ホテルでは99年から宴会業務の管理システムを導入している。だが、実業務とシステムフローとのギャップを埋める事が出来ず経理優先のシステム運用に留めざるを得なかった。台帳管理やオーダーシート・実績管理・各種資料作成などはすべて手作業で行ないシステムと合わせて管理していた。

今回(株)ユニコーンの婚礼・宴会会総合支援システム「BVManager」を導入したのは、これまで手作業で行っていた業務をIT化することでお客に対するレスポンスを迅速かつ正確に実現するため。台帳をブックレスにして営業マン全員が最新情報をチェックできるよう

従来の流れに沿ってカスタマイズしたことで違和感なく導入に成功



右から) 名古屋観光ホテル 取締役 副総支配人 兼松史勝氏、同社 経営企画室ブ ロジェクトマネージャー 武田行正氏、同社 販売部 業務課 課長 青山和義氏 同社 プライダルセールス部 プライダルコーディネート課 係長 浅野哲也氏

になれば販売チャンスは確実に広がるし、手作業がなくなれば効率も上がる。これにより収益性の向上を図ろうと考えたのである。

ただし、愛知万博を翌春に控えるなどの諸事情から、本格稼働までの準備期間は4ヶ月足らず。にもかかわらず、短期間に問題なくシステム移行が実現できたのはユーザーフレンドリーなシステム設計もあるが、これまでの帳票と同じフォーマットで入出力できるようカスタマイズしてもらったことも大きかったと副総支配人の兼松史勝氏は言う。

「同種のシステムにありがちな押しつけがなく、ペーパーレスになっても違和感なく業務に取り組むことができました」

システム導入で内勤スタッフが半減するなど大幅な効率化実現

ユニコーンのサポート力の高さは、すでに導入済みのホテルでは定評があり、同ホテルもそこに期待していたのだが、それ以上のものがあつたと経営企画室の武田行正氏は打ち明ける。

「こういうドキュメントを出したいと相談すると一晩で解決してしまふ。対応力とスピードに大いに助けられています」

同ホテルの要求は、実際のところかなりシビアなようだが、担当する情報システム事業部の杉山良一氏は「こうしたという明確な指示があるのでやりやすいですね」と微笑む。両者は理想的なパートナーシップを構築できたと言えよう。狙いのひとつである効率化について、

同ホテル販売部業務課課長の青山和義氏はこう語る。

「会計作業まで一括で管理できるので、業務を担当する内勤スタッフの人数は半減することができました」

しかも、以前のシステムからのデータ移行も完了し、業務上必要なレポートがすぐに抽出できるようになるなど、業務のクオリティも上げることができた。今回のIT化でスムーズな移行と成果をあげる事が出来た理由はこのように目に見える効果をもたらしたからだ。

「今後は更なる収益アップを目指し、より有効なシステム活用を目指したい」(兼松氏)

「チャペル新設と宴会場の改装で好調」(プライダルセールス部浅野哲也氏)な婚礼を含め積極的な宴会セールスを展開するという。

予約状況などをビジュアルに表示。見やすい画面づくりも同システムならではのもの。



同ホテルを担当するユニコーン情報システム事業部の杉山良一氏